

東構協・東地区

約20人を集めて地区会

事業継続計画など重要性を再確認

東京鉄構工業協同組合の東地区(地区長 前田茂昭・前田製作所社長)は18日、墨田区の第一両国ホテルで組合員や協力会メンバーら約20人を集めて地区会を開催した。

前田地区長はあいさつで「地区会は地域的に密接した組合員が交流を図るところに大きなメリットがある。業界や組合活動の現状など相互に情報を交換して有意

義な会としたい」と述べ、組合活動への理解を求めた。

また、吉岡晋吾理事長(吉岡工業社長)も「地元の仕事の協力、情報共有など地区会の果たす意義は大きい」とした上で「今回、首都圏を直撃した台風15号は工場損傷や停電に伴う操

業休止など大きな影響を与えた。こうした時こそ、関連団体や協力会など全員が心をひとつに協力し合う体

制が大切。今後も組合発展のため、積極的な活動推進をお願いしたい」と来賓あいさつを述べた。

東地区は千葉県に工場を設置している組合員も多いことから、引き続き行われた各社の現状報告では、台風15号による被害に話題が集中。工場の屋根・壁等の損傷が最も多く、また、クレーンなどの設備の故障のほか、停電による操業休止(18日に通電)の報告もあった。今回の被害を教訓に、改めて事業継続計画(BCP)や相互支援活動の重要性を確認した。



現状報告では台風被害に話題が集中

東構協は台風通過直後から、組合員へ被害調査(アンケート方式)を実施しているが、「通信不可となっている組合員もあり、18日現在で全体像は把握できていない」という。